第3部 大学事例報告（2013年度）

高知大学

高知大学における新たな分野横断型教育プログラム ～土佐さきがけプログラム（TSP）～

高知大学
理事(教育担当)・副学長
深見 公雄

[2013年5月25日 河合塾大阪校]

1. 土佐さきがけプログラム（TSP）について

本日は、昨年度2012年度からスタートして今年第2期生を迎えた分野横断型特別プログラム・土佐さきがけプログラム（以下TSP）の内容についてお話しし、そのあとに全学的に実施したPROGテストで大学全体の中におけるTSPの学生の位置付けを紹介します。

TSPは、本学の実績や特色を活かし、従来の学部・学科のカリキュラムから独立するという方針で立ち上げたものです。関連するさまざまな分野を横断的かつ総合的に、いろんな学部で開講されている授業および新しく開講した授業科目を組み合わせて総合的に学ぶ独自のカリキュラムを準備しています。

TSPでは、幅広い知識を基礎力と呼んでいます。それらを組み合わせて考える力の応用力を身に付け、現代社会が抱える課題の解決に積極的に取り組む社会のリーダーの育成を目指す。それは土佐出身の坂本竜馬のように時代の一歩先を進む人材の育成ということで「土佐さきがけプログラム（TSP）」と名前を付けました。

TSPの特徴は、各コースのディプロマポリシーにあわせてカリキュラムを部局横断的に編成しているということです。2012年度からグリーンサイエンス人材育成コース、国際人材育成コース、スポーツ人材育成コースの3つのコースを立ち上げました。さらに2013年度から生命・環境人材育成コースが加わり、現在4つのコースがあります。

TSPのコースは、いずれもそれぞれの学部の定員から少しずつ枠をつくってたちあげています。またTSPには、「出でよ 平成の竜馬」というキャッチフレーズをつけています。

本学の特徴的な授業に大学基礎論があります。大学で学ぶことの意義、卒業後の自分の将来像などをイメージします。グループワークでアクティブラーニングの授業を実施しています。TSPでは“毛色”の異なる各コースの学生が一緒に熱心に学んでいます。

学位についてですが、グリーンサイエンスコースは修士課程に進学することを前提にした6年一貫のコースで、学士課程は学士（理学）ですが、修士課程では修士（学術）を与えます。各方面を横断的に学ぶということです。それ以外のコースでは全部学士（学術）という学位を与えます。ただしスポーツ人材育成コースは副専攻のため、少し異なります。

2. TSPのコース紹介

①グリーンサイエンス人材育成コース

TSPの4つのコースについての特色を説明します。まず「グリーンサイエンス人材育成コース」は、センター入試を課すAO入試をやっていて募集人員は5名です。そして6年一貫です。

グリーンサイエンス人材育成コースは、化学を基盤にして環境に配慮した技術開発、学際教育を行うところです。修士課程に進学することを前提にして6年一貫の教育をいたします。これまで本学では特別研究プロジェクトで環境調和型物質変換プロセスの構築によるニューマテリアル創設というプロジェクトをやってきて、かなりの成果をあげてきました。この研究成果をぜひ学生の教育に取り入れたいと思い、こういったコースをつくりました。

学士課程の部分では、まずは化学の基礎知識を勉強します。修士課程に進んでからは、学際的に文系の授業や社会的問題の把握なども含め、広く学びます。普通は入口が広くて(学年が)進むと専門的になる形になりますが、ここでは逆です。最初に専門を教え込んで、上に行って広くなるカリキュラムです。また修士課程では海外の協定校に1か月ほど行く研究インターンシップを義務付けています。

入試は、センター試験を課すAO入試です。個別学力試験では口頭試問を含む面接を行い、ここで学生の意識その他について時間をかけて選抜します。

②国際人材育成コース

2つめの「国際人材育成コース」の話に入る前に、コースについての考えを話します。

国際化とは何なのかと最近よく問われます。グローバル人材を多数輩出し、従来の国家や地域の垣根を越えて国際社会で活躍すること、これが国際化ですね。ではグローバル人材とは何か。キーワードは「コミュニケーション能力・意思疎通」、そして「異文化理解」です。自分が所属する側が“自文化”、しない方が“異文化”。まずは“自文化”を知り、誇りを持ち、“異文化”を理解し、両者の違いを認識した上で、異文化の相手を尊重し、協働できる人だと私は思います。

ここの特色は、英語、中国語、日本語、の3つをしっかり理解できるように教育を行っているということです。いずれ中国語の役割がものすごく大きくなり、ビジネスマンが学ぶ必要になる状況になると考えており、今からしっかり勉強する学生を育てたいと思います。文化的・歴史的背景による価値観の違いを乗り越えて自文化と異文化を理解する心を持った学生を育てるため、このコースでは日本人と外国人留学生を同じプログラム内で混在させています。日本人学生の場合は3年生のときに海外協定校への留学や海外インターンシップを、外国人留学生の場合は国内留学や国内企業でのインターンシップを行うことを3か月ないし6か月間、義務付けています。

入学試験は、センター試験を課さないAO入試です。内容は、小論文とグループディスカッション（英語）と面接です。最初、英語でグループディスカッションが成り立つのかどうか不安でしたが、昨年と今年の受験の様子では、しっかりディスカッションが成り立っているようです。とてもいい学生が入学しています。

③スポーツ人材育成コース

高知大学には、スポーツ専攻以外の学生が全国大会等で活躍し、生涯にわたってスポーツに関わる学生が多数存在しています。一例ですが、2009年全日本大学サッカー大会のチームの選手は、教育学部生涯教育課程スポーツ科学コースというスポーツを専門にする学生に加えて、普通の学部の学生達が何人もいました。このように、専門を持っていながら生涯にわたってスポーツを続けられる人材を育てたいと思い、「スポーツ人材育成コース」を作りました。

「スポーツ人材育成コース」の学生は、それぞれの学部に所属します。それぞれの専門分野を学んだ上でスポーツ活動を両立させ、副専攻としてスポーツ科学を学びます。将来企業に入って、そこのスポーツチームのコーチになったり、地元のチームのコーチになったりするなど、職場や地域でのスポーツの活性化やスポーツを通した地域貢献ができる人材育成を目指します。

教育の特色は、専門分野に加え副専攻としてスポーツ科学に関する授業を24単位とります。本学では医学部以外は124単位が要卒業単位ですが、このコースでは140単位が必要です。また、このコースの入試は、学部の合格者の中から高校時代のスポーツ実績で選抜しています。

④生命・環境人材育成コース

最後は、2013年度開始の「生命・環境人材育成コース」です。設置目的と育成する人材像は、「人間を含むすべての生物の生命活動とそれを支える環境諸科学を領域横断的に教育し、生命を次世代へ繋ぐために必要な諸課題を解決できる人材を育成する」です。このコースの入試は、センター試験を課すAO入試です。

3. 土佐さきがけプログラム（TSP）実施上の問題点と課題

一方で問題もあります。整理すると次のようになります。

1. 既存の教育組織との差別化をはかる必要がある
2. 担当教員の負担が増える
3. 必ずしも担当教員全員が実施に情熱があるわけではない
4. 学内予算等の重点配分に対する抵抗がある
5. 学生人数の割にコスト（予算・労力）がかかる
6. 学生の居室等設備の新設・整備が必要
7. 高校生や進学担当教員等に理解されにくい。

4. 土佐さきがけプログラム（TSP）の特長と、PROGの導入

今回、PROGテストを導入した経緯を、TSPの特長に関連付けてお話いたします。

TSPの特長は、カリキュラムが分野横断型であること、少人数であること、全く「毛色」の違う複数のコースが混在していることであり、これらはとても面白いことだと思っています。

さらに、大学が資金的援助をする留学や学会活動等の機会があること、他大学の同世代の学生や先生との交流の機会が多いことも挙げられます。この点が、先程話した「異文化交流」です。

土佐さきがけプログラムの学生が他大学の学生にこう聞かれていました。「このコースのどこがいいのか。」と。学生はその問いに一生懸命答えなければなりません。そのためには所属するコースやプログラムを十分知っている必要があります。

私の専門は外に出てフィールドでの調査を行うことでした。学生の頃から研究航海や野外調査でいろんな他大学の先生や学生と交流してきました。これは私にとってものすごくいい経験でした。ひとつの例ですが、南極海の調査ではさまざまな大学の異なる専門分野の先生や学生と、グレートバリアフリーフの調査では私とは違う分野のオーストラリアなど他国の専門の人と交流してきました。そのたびに自分の専門分野の説明やどういう研究をしているのかの説明が必要になります。私は異文化交流をしてきたという自負と大きなその効果を感じているので、これを土佐さきがけプログラムの大きな特色にしたいと考えています。

また、大学をあげてさまざまなインセンティブを学生に与えています。グリーンサイエンス人材育成コースでは、修士課程の授業料の半額免除、海外インターンシップで渡航費用の負担をします。国際人材育成コースでは、海外あるいは国内のインターンシップの渡航費や保険料の負担。スポーツ人材育成コースでは、競技大会・審判講習会その他の参加費用、宿泊費用、トレーニングに関する諸費用。生命・環境人材育成コースでは、3・4年次の学会参加費用。といった具合にさまざまなインセンティブを与えています。

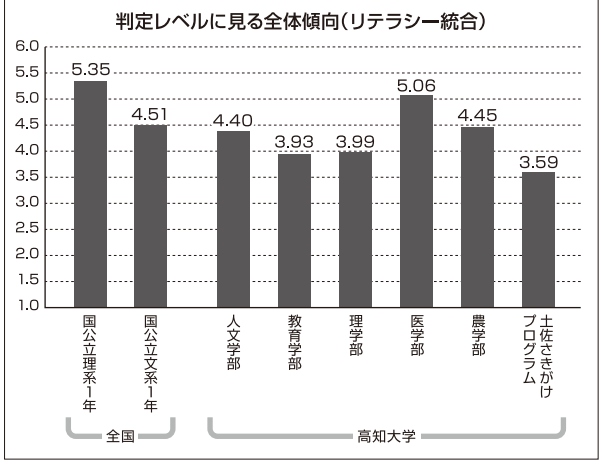
今回、こういったTSPの取り組みの効果を具体的に測定するために、他学部も合わせてPROGテストを実施し、その結果の考察を行いました。

5. PROG測定 2012年、2013年

TSPの学生を含む本学の学生に、2013年にPROGテストを実施しました。ただしTSPの国際人材のみ2012年の結果も含んでいます。

まずリテラシーでの結果です。リテラシーは知識を使って何ができるかを考える力です。

図表1 高知大学の各学部とTSPのリテラシー統合の成績平均



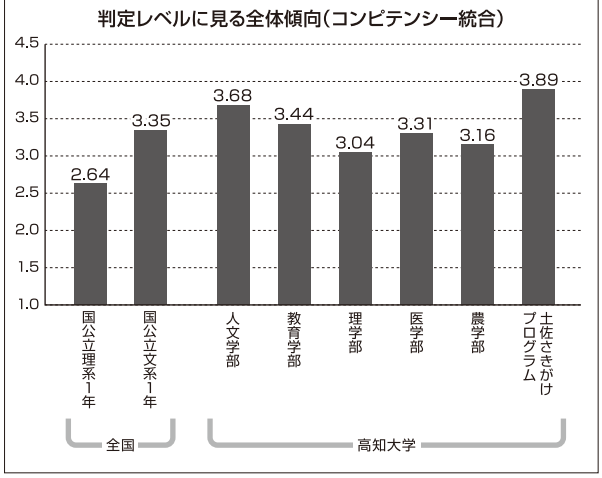
図表1の左側に国公立理系と文系平均、他が本学の各学部とTSPです。TSPの学生が他のどの学部よりも低く、特に国際人材育成コースのリテラシーが低いという結果が出ました。

また学部ごとのレベルの分布では、理系のレベル7というのが一番高いのですが、本学はだいたい3ないし4です。TSPも4ぐらいです。

次にリテラシーの要素別の平均を比較しましたが、やはりTSPの結果は、他大学・他学部と比較しても低かったです。特に情報収集力・情報分析力が低い結果が出ています。さらにコースごとの結果では国際人材育成コースが一番低いという結果が出ました。

次はコンピテンシーです。コンピテンシーは、置かれた環境にうまく対応し行動する力です。

図表2 高知大学の各学部とTSPのコンピテンシー統合の成績平均



図表2の通り、どの学部もだいたい3ないし3.5でした。ところがリテラシーとは異なり、コンピテンシーの結果はTSPが他のどの学部よりも一番高い結果でした。今年の受験学生だけに限った結果ではさらに高くなります。要素別でも、リテラシーではどの要素も低迷していたのが、コンピテンシーではどの項目も他学部より高いか同

等です。コース別に見ると、総合、要素別ともに先程もっとも低かった国際人材育成コースが長けています。

リテラシーは低いのに、コンピテンシーは高い。もしかしたらこれは私たちがアドミッションポリシーで求めている入試のやり方がうまく機能している、ということではないかと考えられます。つまり、知識はまだそれほどなく、いわゆる成績は良くないかもしれないが、協働しながら自分を高められる、あるいは高めてきた学生が入学しているということです。

全学のリテラシーとコンピテンシーの成績をまとめた結果、一番多いのはリテラシーが3、4レベル。コンピテンシーも3、4レベル。割合としては18％ぐらいですね。入学して間もない時期のテストなので、今後それぞれ少しずつアップさせたいです。TSPの学生も、これから4年間でリテラシーが少しでも高くなるよう教育していきたいです。

TSPは、まだ今年で2年めです。今後もしっかりやっていきたいですし、リテラシー・コンピテンシーともに能力を上げていく教育をしていきたいです。

「これからの時代、世界を見渡し、地域を支え、世の中の一歩先を進む人材を育成したい！」こういう意欲に燃えて教育をしています。以上で終わります。